

《童話：ボンジュール！わたしはオーちゃん》 《 Le conte pour enfants : “Bonjour, Je suis O chan” 》

木下 恵美子
KINOSHITA Emiko

Abstract : *J'ai été la directrice de l'école japonaise complémentaire de la Côte d'Azur pendant quinze ans.*

L'état japonais propose un enseignement aux enfants dont un parent ou les deux parents sont japonais. Les enfants y apprennent des matières comme au Japon en étudiant uniquement le samedi.

Ce conte pour enfants s'appuie sur l'histoire véritable d'une fille qui s'appelle Océane. Sa mère est japonaise et son père français.

Comme elle parlait très mal le Japonais, sa mère l'a inscrite à notre école. Au début ce n'était pas facile pour Océane de communiquer en japonais avec les autres enfants, mais elle a fait des progrès petit à petit. Finalement elle a voulu mieux connaître son pays natal, le Japon.

Je me demande souvent ce qu'elle est devenue. Si nous pouvions nous rencontrer à nouveau, cela me ferait un immense plaisir.

Keywords : La directrice de l'École, L'École Japonaise Complémentaire de la Côte-d'Azur, Le conte pour enfants, 校長先生、コートダジュール日本語補修授業校、童話

私がフランスで暮らしていた時、カンヌ市近郊にあるコートダジュール日本語補習授業校（L'École Japonaise Complémentaire de la Côte-d'Azur）の校長を15年間ほど務めていた。この補習校は日本国からの援助、現地の日本企業などからの寄付を基に運営されている。子供達は毎週土曜日に、日本とほぼ同じカリキュラムに沿った勉強で、特に、日本語（国語）の習得に力を入れ、限られた時間の中、何らかの形で日本への興味を高められる様授業を行っている。そんな中で、9月の新学期の日に、二人の姉妹が入学して来た。この童話は、その頃の子供達の様子を思い出しながら書いたものである事をお伝えしたい。両親のどちらかが日本人でもフランス在住の子供達にとっては、日本は遥か彼方の遠い国である。その様な環境の中で私の役目も大切で、それぞれの日本への思いを共有しながら成長の手助けをしていった。あれから既に10年以上が過ぎ、フランスでの姉妹の今の様子などを知りたいと強く願う今日この頃である。

ボンジュール！

わたしとお姉ちゃんのルナは、南フランスのニースに住んでるの。ここはいつもヴァカンスを楽しむ人達でにぎわうすてきなところ、真っ青な海がとってもきれいわ。お日さまの光をいっぱいあびて、砂浜にねそべって本を読んだりおひるねしたり。水着すがたで海辺をさんぽしてる人たちも。みんなとってもしあわせそう。

わたしのパパはフランス人、ママは日本人なの。わたしたちは二人姉妹。お姉ちゃんは、わたしよりずっと勉強が出来るし成績はいつもクラスで一番。何でも知ってるから「どうしてこんなにわたしとちがうのかな」っていつも思う。

そう、そう、わたしの名前はオセアヌ、8才。家族のみんなはオーちゃんって呼んでくれる。フランスの学校は夏はヴァカンスが2か月以上あってとっても長い。その間、わたしはママに日本語を教わるの。毎日、日本の童話や昔話を読んでもらって、ひらがな、漢字もおぼえなくちゃいけないしたいへんなんだ。

時々むずかしくてわからないとママがこわい顔をしておこり出す。だからいやになっちゃうこともある。

フランスの新学期は9月に始まるの。そこで、お姉ちゃんとわたしは日本語補習校っていう学校に行くことになった。ママがわたしたちに教えるのがたいへんだからかな。土曜日だけの学校で、日本のこといっぱい勉強するんだって。どうなるのか心配でたまらない。初めての日、ママから「オーちゃん、これから日本人の友だちといっしょにべんきょうがんばってね」ってちょっと強く言われたけど、わたし、フランスに住んでるのに、どうして日本語やらなくちゃいけないの。めんどくさいな。

補習校に初めて行った日、すぐに校長先生に会った。「ボンジュール マダム」とあいさつしたら、「こんにちは」と返ってきた。そして、ママに早口でいっぱい話してたけど、わたしには何のことかよく分からない。まわりにいた友だちがわたしのところに集まって来て、「今日、新しく入ってきたの？」ってワイワイさわいで、わたしをじっと見るからドキドキがとまらない。

いよいよ勉強が始まる。その前に集会があって、わたしたちはみんなの前に立つ。校長先生が「みなさん、新入生ですよ。二人とも自分の名前をどうぞ」と目くばりをしてくれた。お姉ちゃんが先に「ルナです。どうぞよろしく」と頭をさげた。わたしはもうはずかしくて、泣き出しそうな小さな声で「わたし、オーちゃんよ」とやっと言った。でも、みんなはガヤガヤ、わたしの顔見て笑うの。どうしてなの？

やっ集合会がおわり、わたしは一年生のクラスに入った。校長先生が国語の勉強を教えに来てくれた。広い教室にたった6人しかいないのでほんとうにびっくり。わたしのとなりはゆかりちゃん。前の席は男の子二人でルイとマルセル。わたしみたいにお母さんが日本人だって。あとはみなちゃんとれいなちゃんはふた子。お人形みたいにすごくかわいいの。いいなー。うらやましい。わたしはみんなより大きくてちょっと太ってるから男の子が時々からかう。

そう、今、勉強中なのに、なんだかちっとも頭に入らない。日本の教科書って絵がきれいだね。とても気に入った。でも、みんなみたいに上手に読めない。ひらがなを指でひとつずつさして「ど・う・ぶ・つ・の・あ・か・ち・や・ん」とやっと言えた。ゆかりちゃんがとなりで小さな声でいっしょに読んでくれたから、フー、助かった。ありがとう。

みなちゃんはいこにこしながら、このお話スラスラ読んでるの。すごいな。ゆかりちゃんは先生に何か聞かれると「はい！」とさっと手をあげるし、れいなちゃんは「わたし、きのう、お母さんとこのお話読んだから全部分かってる」んだって。でも、二人の男の子はわたしよりちょっとマシっていう感じかな。パパとママが両方日本人だとトクだよな。家でもずっと日本語だし。でも、そのかわり、フランス語はどうか。

ゆかりちゃんは夏休みの間に日本から来たので、9月から近くのフランスの小学校に入ったって。お父さんは大きな車の会社ではたらいいて、3年間だけここに住むらしい。ママが言ってた。わたしたちはすぐにすっかり仲良しになって、来週はいっしょに遊ぼうと約束までしちゃった。言葉がうまく通じなくても何とか気持ちは分かるんだね。勉強中について、わたしはフランス語で話してしまう。すると校長先生が「アッアッ！！オーちゃん、ここは日本よ」と注意するの。1時間目の国語はとっても楽しかった。「今日は初めてだから、このぐらいにしましょうね」って校長先生は教科書をとじた。

みんなやさしくて大きな口をあけて、日本語を教えてくれる。ずっと続けて勉強したい気持ちになったよ。お姉ちゃんもよろこんでたみたい。勉強家だから何をやってもみんなに負けないうルナ。いつも私をかばってくれるから、わたしにはお母さんが二人いるみたいでたのしい。

10月になったら運動会があるんだって。土曜日の3時間目はいつも運動会の練習。ママも小さいころ玉入れなんかやったらしいけど、フランスの学校とずいぶんちがうんだね。わたし、運動は好きじゃないし、走るのみにがて。みんなでまるくなってダンスもやるんだけど、どうもうまくできない。お母さん達も一緒に踊るので手をグイグイ引っぱられてつかれちゃう。校庭を回って走る練習をした時はいつもボリ。でもね、「オーちゃん、がんばれ！フレーフレー」、ルナやみんなが応えんしてくれる声が聞こえてくる。がんばって最後まで走らなきゃって思うんだけど足がもつれて先に進まない。

どうしよう。運動会の日が心配。これじゃはずかしいよ。わたしとちがって、お姉ちゃんは何でも上手なんだよ。走ってもいつも一番。これからルナにおそわって、少しでも速く走れるように練習してみよう。

わたしはまだ日本に一度も行ったことがないの。ママはお店で働いてるからいそがしいんだって。お休みがとれないみたい。同じクラスのみなちゃんとれいなちゃんは毎年行くとって言ったからうらやましい。わたしもつれて行って。そしたら、日本語すぐにうまくなるでしょう。でもね、ルナは漢字もよくできるし、読むのもスラスラだし、すごいよね。日本の学校に入れよ。わたし、お姉ちゃん大好き。

ママが住んでたのは東京だって。きっとパリみたいなのところかな。にぎやかでお店もたくさんあって。

飛行機でどのぐらいかかるんだろう。10才までに一度は行ってみたいの。

そうだ、今、良いこと思いついた！日本に行けるように校長先生にたのんでみよう。もちろん、ルナと一緒にね。この前、集会の時、校長先生はみんなに「私のひみつを話すからよく聞いてね。まだ、だれにも見せたことがないけど、私はね、何でも願いがかなうコインを3枚とても大事に持っているの」で言ってた。

すごいな。まほうつかいみたい。きつとうまくいく。

「校長先生、オーちゃんとルナにコイン1枚ずつください！わたしたちの願いをかなえて。二人でコインを持ったら、かならず日本に行けるよね」あ～！何だかウキウキ、ワクワクしてきちゃった。これから日本語、もっとがんばって勉強すればだいじょうぶ。オーちゃんのゆめを校長先生がかなえてくれる。うれしい！

「Merci beaucoup！あつ、いけない。日本語で」「本当にありがとうございます」

「オーちゃん」で声かけてもらって、先生やみんなと仲良しになったから、土曜日が待ちどおしい。